

よぬだ ところどころ



第十号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

牧野」の特徴は「御林」にあり

上記の図は、明治初期の牧野地区の村絵図である。黄色で着色されている場所は耕地、青色が山林である。ピンクの部分が集落である。

この広大な山林の部分が「御林」「おんはやし・ごりん」と呼ばれた。もともと砂礫の堆積層が表面を覆い、水が十分にいきわたらない場所のため開発が遅れるとともに、尾張藩の林野地として保存され、維新以後国に接収されて公有林野となったという経緯がある。

濃州徇行記と「牧野」ユヅツの記述から

加茂郡下牧野村 米田荘 竹腰小傳次采地
東西十六町南北十一町 四隅 南は木曾川を限る 北は今村 西は小山 東は上牧野村
曰く「此の村は民戸木曾川の北岸に連綿としてあり、小百姓ばかりなり」「農業一事の處にて高に准じては作人多く、上牧野村の田地を承けつくととなり」

下牧野村の集落は、木曾川の北岸に沿って長く細く存在し、大きな百姓はいない。農業のみで生計をたて、人口が多いので上牧野村に出作りをしている。

「畠は木曾川の邊へ付てあり日向よき處なり、しかし、砂地にて麥など實り悪しし、田は御林と山の交ひに東西へさしながくあり」

畠は、木曾川べりにあって、日照は良い。地質は砂地で作物の实りはよくない。水田は林地と山の境に細長く存在する。

「字」「宮前」「溝越」「ミヤ野」「下渡り」「縄手」「箱岩」「天神」「アザミ原」「横山」「馬越」「迫間」など云うなり」

「又、村落の中通りに東西へ長き沼田あり、是は見取也、総体此村は御林、上牧野より小山界までつづき見通し悪しき村立なり」当時は村人も迷うような土地であった。

